

## 私の生き立ち

伊豆市遺族会 萩野富央

私は昭和 14 年 12 月 12 日生まれの満 80 歳です。私の父親は満州で捕虜となり終戦後の昭和 21 年 10 月 10 日満 31 歳で戦死ですが、戦友会の方々に招待され、戦争のことをいろいろと聞かされました。ほとんどの人が厳しい寒さと強制労働、飢えと病により死亡し、鉄砲玉に当たって死亡した人はほんの僅かとのことでした。

私は戦後初めての小学校への入学生でまだ尋常小学校でした。私は長男でしたので、家業が畳屋と百姓で家を継がなければならないと祖父や親戚の者から常に言われ、母も父親の弟と昭和 23 年に再婚し二人の弟と妹が生まれました。

私が中学三年の三学期になってから、家の者、親戚の者から今後 10 年 20 年すると日本もどんな時代が来るか分からないので高校ぐらいは卒業しろ、大学へ進学する普通高校へは行くでないと言われ、農業高校を昭和 33 年卒業し家業を継ぐつもりでいましたが、近所の郵便局長様から郵便局で働いてみないかと強い誘いがあり非常勤職員として就職しました。

ところが母親と再婚した父が昭和 33 年 9 月 26 日狩野川台風により近所の家に救助に行き家ごと水に流されて亡くなりました。狩野川台風では 930 人の人命が失われ、旧中伊豆町では 83 人が亡くなりました。私の家も田畑が流され山林も崩れてその復興も大変でした。

その後、いろいろの試験を受験し合格、最後には沼津合同庁舎内郵便局長を平成 13 年退職し、その間地域の遺族会で妻の公務扶助料や国債の請求・失権の手続き、軍人恩給の請求や特別弔慰金の請求手続き等に携わらせて頂きました。又、地域の区長会長、神社総代（12 年間）も行い現在遺族会長、県理事として微力ではありますが活動しており、平成 30 年 12 月 12 日には県の推薦により厚生労働大臣表彰を受賞致しました。今後共地域に貢献できるよう頑張っ  
てまいります。 (令和 2 年 4 月発行の静岡県遺族会報より)